

石丸さんと伊澤さん(ネット情報4)のユニット「はぐめはぐめ」

『生きかた見聞録』発行

人生の先輩16人にインタビュー

自分らしく生きるにはどうしたらいいか。ネットワーク情報学部の石丸達也さんと伊澤穂香さん(ともに4年次)が、人生の先輩へのインタビューをまとめた『生きかた見聞録』を発行した。さまざまなキャリアを持つ社会人16人に、人生の岐路での選択や、失敗からの回復などを率直に尋ねた。2人は「社会に出ることを控えた3、4年次生、自身のキャリアデザインを考える1、2年次生のどちらにも役立つ話ばかり。ぜひ読んでほしい」と話す。

「本を作りたい」と意気投合した2人は、「はぐめはぐめ」というユニットを結成。杉田このみ研究室で卒業演習として活動に取り組んだ。ユニット名は、2人が薄明(明け方)と薄暮(夕方)に活動していることに由来する。活動は高く評価され、ネットワーク情報学部の学部長奨励賞や第22回育友会奨励賞を受賞した。



出版した本を手に笑顔の石丸さん(右)と伊澤さん。背後は本に掲載された伊澤さんの作品

取材や執筆を共同で行い、石丸さんがデザインと編集、伊澤さんがイラストを担当した。最初にお互いを紹介する記事などからなる冊子『薄明薄暮性』を制作。当時は就職活動中で、「キャリアデザイン」の授業で先輩の成功体験を聞き、自分にもできるか不安に感じた(伊澤さん)ことから、経験豊かな社会人の話を聞きたいと、『生きかた見聞録』に着手した。

大学教員や会社員、看護師など年齢、職種、立場が全く異なる16人に対し、共通して尋ねたのは「自分らしく生きる」とのことについて。「それぞれの生き方があり、読者の人生の参考になる話が必要。全員に共通するのは『何が起るかわからないのだから人生を楽しもう』という姿勢。私自身、人生の先輩からのアドバイスに『何とかなる』という気持ちを持てるようになった」と石丸さんは語る。伊澤さんは「人生の分岐点で縁を重視してきたという小説家・志賀泉さんの話が印象的だった。この活動を通してさまざまな人と出会い、結んだ縁を大切にしていきたい」と話した。

完成した本は、昨年末の「コミックマーケット」で販売。現在はコンテンツ配信サイト「note」で公開中。  
https://note.com/hakure

人間科学部社会科学科 代表3人が卒論発表



人間科学部社会科学科の代表論文発表会が1月31日、オンラインで開催された。今年度の卒業論文の中から、4年次生3人が発表し、後輩や大学院生が聴講。総勢240人が参加した。社会科学科では14のゼミごとに代表論文を選び、その中からさらに文化系、生活系、地域系の3分野の代表論文を選出する。今年度の発表者は、山口茜さん(金井雅之ゼミ)、横江明日香さん(馬場純子ゼミ)、馬橋萌音さん(大矢根淳ゼミ)。

6人に学位 博士後期課程

2021年度博士後期課程を修了した6人に博士の学位が授与された。氏名と専攻、指導教授は次の通り(敬称略)。

- ▽川津大樹(商学研究科 会計学専攻・椛田龍三)
- ▽車花子(文学研究科 日本語日本文学専攻・高橋龍夫)
- ▽岩澤龍彦(文学研究科 哲学専攻・伊藤博明)
- ▽イ・ドンギョ(文学研究科 歴史学専攻・土生田純之)
- ▽鈴木比奈子(文学研究科 地理学専攻・熊木洋太)

学生ビジネスプランコンテスト 経営・山内ゼミ 2組が入賞

経営学部・山内昌斗ゼミ3年次生の2チームが「学生ビジネスプランコンテスト」(一般財団法人学生サポートセンター主催)でアイデア賞と努力賞を受賞した。200件を超える応募の中からアイデア賞に選ばれたのは、小林昂生さん、松本真武さん、山口峻さんのチーム。地域のNPOを月額500円から応援できるサブスクリプションサービス「TSUNAGARI」を考案した。小林さんは「個人が手軽に、かつ継続的にお金を支払うサブスクを活用することで、息の長い支援の仕組みを目指した」と話した。3人はコンテストに応募後も、子ども食堂の運営団体の協力を得てフィールドワークを行うなど、より実践的な活動を続けている。努力賞を受賞した伊藤花奈さん、アコウア・ニモ・英美さん、清野真貴さん、高橋葵凛さん、遠井海希さん、平野樹香さんの6人は、ふたを開けると中身が飛び出すポップアップ式の「のど飴ケイス」を開発・販売するプランを提案。「感染リスクを避けるため、口元を手を近づけずに飴を口にしたい」と(伊藤さん)との着想からプランを練った。

第55回かわさき市美術展

杉田講師が優秀賞 審査員特別賞に光武さん

川崎市民や市内で活動している人を対象とした公募展「第55回かわさき市美術展」の写真部門で、ネットワーク情報学部の杉田このみ講師が、部門1位となる優秀賞を受賞した。また、杉田研



杉田講師の作品(3枚組みの1枚)



光武さんと受賞作の「人工色」

究室の光武希さん(4年次)が同部門の審査員特別賞に選ばれた。杉田講師の作品は「2021年7月21日大学の風景」で、5色の風船を

持った5人の学生を、生工色一は、日々出会う風景を題材にした。「毎日堂・図書館で撮影した。写真部門の応募作品59点の1位に選出された。光武さんの受賞作「人工色」と話している。

ネットワーク情報学部長賞

ネットワーク情報学部の学部長賞・学部長奨励賞に4組が選ばれた。受賞者は次の通り。(敬称略、カッコ内は学年)

★学部長賞【第55回かわさき市美術展(写真部門)審査員特別賞】光武希(4)【第4回新人フリーゲームコンテスト】オ

商学部長賞

学内外で活躍した学生を顕彰する商学部長賞の表彰式が2月7日、オンラインで行われた。受賞者は次の通り。(敬称略、カッコ内は学年)

上3)【専修大学SDGsチャレンジプログラム2021学長賞】アイデアコンテスト 池部

★学部長奨励賞【育友会奨励賞】石丸達也、伊澤穂香(以上4)【国家公務員採用総合職試験合格】板井陽斗(4)

【公認会計士試験合格】中川玲菜(4)金澤諒太郎(4)富士

上3)【専修大学SDGsチャレンジプログラム2021学長賞】アイデアコンテスト 池部

【専修大学SDGsチャレンジプログラム2021学長賞】アイデアコンテスト 池部

制作物を発表 ネット情報 「応用演習」

ネットワーク情報学部の2年次後期選択必修科目「応用演習(メディアコミュニケーション)」では、川崎市内の九つのNPOや市民活動団体と連携し、各団体の広報に資するメディアの制作(ロゴマーク、リーフレット、ウェブサイト、PR映像)に取り組んだ。半年間の活動の成果を報告する発表会が1月20日、全団体が参加してオンラインで行われた。永井莉佳さんをリーダーとするチームは、16ミリの大切な地域の課題に改めて気付くことができたと感想を述べた。

折り紙で日韓交流

冬期日本語・日本事情プログラム 日本事情プログラム



オンラインで日本語や日本文化について学ぶ「冬期日本語・日本事情プログラム」が1、2月に実施された。本学の国際交流協定校である韓国の慶熙大学と檀国大学から14人が参加。個々のレベルに応じた日本語講座のほか、日本文化体験では、専大生と一緒に折り紙を楽しんだ一写真。